

島根県立  
古代出雲歴史博物館  
NEWS

2012.JUL vol.23



CONTENTS

- 2 特別展「写真展 八雲立つ出雲」特集

---

- 3・4 古事記1300年・出雲大社大遷宮      5 学芸員通信

---

- 6 博物館だより／まいぶんセンター通信

---

- 7 古代文化センターだより      8 れきはくごよみ



神話博しまね 特別展

写真展

# 八雲立つ出雲

植田正治、上田正昭が歩いた神々のふるさと

会期●2012年 7月21日(土)——10月8日(月・祝)

開館時間●9:00——18:00 期間中の休館日●8月21日・9月18日



特別展 神話博しまね

## 写真展「八雲立つ出雲」

植田正治、上田正昭が歩いた神々のふるさと

今年は『古事記』が編纂されて1300年を迎えます。とりわけ島根は古事記とかかわりが深く、『古事記』に記された神話の概ね三分の一は、出雲を舞台としています。昨今は、こうした神話ゆかりの地をたずねる多くの人々の姿が見られます。

今からさかのぼること47年前の1965年（昭和40）、半世紀ほど前に『カメラ紀行 出雲の神話』（淡交新社）という本が出版されました。神話ゆかりの地を、紀行文と写真で紹介したものです。

紀行文の執筆者は、古代史研究の重鎮で、その研究スタイルは「上田史学」とも呼ばれる上田正昭氏、写真は、主に鳥取砂丘を舞台に「Ueda-cho（植田調）」と呼ばれる独自の作品で、海外でも高い評価を得た地元在住の写真家植田正治氏の二人です。

二人は、本が出版される前年の1964年（昭和39）に取材旅行を約一週間かけて行い、これが縁となって、1974年（昭和49）には、再び『写真集 出雲』（毎日新聞社）を出版しています。

本展覧会では、この二冊の本をもとに、復刻した写真を含めて106点の写真をを選び、半世紀ほど前の出雲の姿を紹介します。二人が感じた神話の世界が生きている出雲、そして、その背景にある重厚な歴史へのまなざしを、ぜひお楽しみください。

**会期** 平成24年7月21日(土) ⇒ 10月8日(月・祝)

**会場** 古代出雲歴史博物館 特別展示室

### I. プロローグ 二人を結んだ出雲の神話

二人が関心を持った『古事記』『日本書紀』『出雲国風土記』に書かれた出雲の神話を簡単に紹介します。

### II. 二人が歩いた神話の舞台

『カメラ紀行 出雲の神話』『写真集 出雲』から選び出した植田正治氏撮影の写真作品106点と上田正昭氏の文章によって、約半世紀前の神話ゆかりの地の姿を紹介します。また、撮影地の現在の姿もあわせて紹介します。

### III. 植田正治&上田正昭—二人の歩み

二人のライフヒストリーを、植田正治氏の写真作品や上田正昭氏の著作物をはじめとするゆかりの品々で紹介합니다。



出雲大社本殿



斐伊川

©Shoji Ueda Office2012

### ギャラリー・トーク

当館学芸員による展示解説です。

●日時：9月8日(土)・9月15日(土)・9月29日(土)

11:00～/14:00～（1日2回）

●場所・料金：当日、展示室前で受付。常設展観覧料、歴博パスポート、神話博セット券のいずれかが必要です。

### 出雲神話ゆかりの地かけめぐりツアー

出雲・松江を中心に撮影ゆかりの地を当館学芸員と一緒にめぐりツアー。

コースには、植田正治写真美術館での、美術館学芸員による解説もあります。

●日時：9月23日(日) 8:30～17:00

古代出雲歴史博物館発着

※料金、コースの詳細はお問い合わせください。

協力：植田正治写真美術館

### スペシャルイベント

## 「遊佐未森」ライブ in れきはく観月会

植田氏に縁（ゆかり）のある遊佐未森のトーク&ライブを、歴博恒例となっている「観月会」と一緒に開催します。

●開催日時：

9月30日(日) 18:30～20:00

（観月会は21:00まで開催）

●開催場所：

古代出雲歴史博物館 風土記の庭  
（荒天時はエントランスホール）

●観覧料：無料

※神話博しまね期間中のため駐車場はみせん広場となります。

京都国立博物館 特別展覧会「大出雲展」の見どころ

# 奈良・平安時代の出雲大社を語る、 鹿蔵山遺跡出土品

古代出雲歴史博物館 専門学芸員 平石 充

京都国立博物館で開催する「大出雲展」、開場はいよいよ7月28日と迫ってきました。この展示は出雲の歴史文化を、古事記や出雲大社をキーワードで紹介するものです。この「狙い」は古代出雲歴史博物館の常設展示とも重なる部分がありますが、今回の大出雲展ならではの、あるいは初めて一般公開になる文化財も数多く含んでいます。

今日ご紹介するのは、奈良・平安時代の出雲大社を想像させる遺跡の出土品です。

皆様、出雲大社の遺跡、といえば、巨大柱の発見された出雲大社境内遺跡が第一番に思い浮かぶかと思えます。しかし、出雲大社境内遺跡の奈良・平安時代の出土遺物は、一般集落の出土品と変わらず、今のところ古代の出雲大社に直接結びつけられるかどうかは不明な状況です。では、この時代の出雲大社は…と辺りを見回すとき、県内でもきわめて豊かな出土品を持っている遺跡があります。それが鹿蔵山遺跡です。

鹿蔵山遺跡は、現在の出雲大社の南約800mにある、砂丘に埋もれた遺跡です。鹿蔵山遺跡では、大きな建物、たとえば出雲大社本殿の跡が見つまっているわけではありませんが、その出土品が「すごい」のです。今回の展示では、わかりやすく紹介するために復元品を製作してみました。

下の写真は、脚付櫃です(写真1)。韓櫃などといったりしますが、全面が赤漆塗り四隅を黒漆塗りとする蔭切とよばれる技法を用いた収納具です。古代のものとしては、奈良の正倉院、正倉院御物を収容していた櫃が有名で、出土品は全国でも十数例しか知られていません。特に…足の部分、C字に隙間が空けてある部分は、紐などを通すためのものですが、この部分が全体に屈曲する事例は、実は、伝世して

いるものも含めて鹿蔵山遺跡出土品のみです(図1参照)。私は密かにですが…出雲で作られた出雲型の櫃ではないかと思っています。



写真2

それから、当時きわめて貴重だった奈良三彩の多口瓶(写真2)。日本で最初の多色の釉を用いた陶器で、島根県での出土事例も出雲国府など数例ですが、多口瓶は器種としても少なく、奈良の薬師寺など寺院での出土が知られています。もし、出土したものが完全な形だったら、

国の重要文化財になったかもしれません。

最後は金色に輝く帯金具。鹿蔵山遺跡では一番最後に来る蛇尾が出土しています。帯金具自体はこの時代の官人身分を表示する装身具でしたが、鍍金(金メッキ)が施されている事例はこれも少なく、全国で20例ほどしか出土していません。なぜなら、金色の帯金具は、位階でいうと五位以上、貴族層にしか着用が許されてなかったからです。古代の出雲国では五位以上の官人は同じ時代には二人しかいませんでした。この二人と



写真3

は、一人が出雲国司のトップ、出雲守であり、もう一人は出雲国造出雲臣です。出土した場所を考えると、奈良・平安時代の何代目かの出雲国造が着用していた帯金具だった可能性もあります。

鹿蔵山遺跡では、「ここが神社でした」、というような資料は出土していませんが、きわめて豪華な品が出土しています。そして、展示に向けてその復元品を製作していく過程で、「きわめて重要な遺跡である」「奈良・平安時代の出雲大社の様子を示す遺跡である」との認識が、私のなかで次第に強まってきています。



写真1

図1 鹿蔵山遺跡の櫃の脚

関連イベント 神楽公演

# 神々の国 しまねの神楽

古代出雲歴史博物館 専門学芸員 錦織稔之

京都国立博物館で、平成24年7月28日(土)～9月9日(日)の期間開催する特別展覧会『大出雲展』に関連し、島根に息づく伝統芸能「神楽」の公演イベントを京都で企画しています。出雲・石見・隠岐の島根全域で、現在もなお神話が身近なところで舞い演じられている姿を伝えます。

まずはその概要から――。

## ■ 出雲神楽の部

8月26日(日) 13:30～16:40

### ◇ 佐陀神能

さだしんのう

(ユネスコ無形文化遺産・国重要無形民俗文化財〔松江市鹿島町〕)

演目／〈式三番〉・〈八重垣〉

### ◇ 大土地神楽

おおどち

(国重要無形民俗文化財〔出雲市大社町〕)

演目／〈野見宿禰〉・〈荒神〉

## ■ 隠岐神楽・石見神楽の部

9月2日(日) 13:30～16:40

### ◇ 島後久見神楽

どうごくみ

(島根県無形民俗文化財〔隠岐の島町久見〕)

演目／〈巫女舞〉・〈湯立〉・〈切部〉

### ◇ 石見神楽温泉津舞子連中&京都瓜生山舞子連中

ゆのつまい これんちゅう

うりゅうやままい これんちゅう

(島根・京都をつなぐ石見神楽コラボレーション〔大田市温泉津町&京都造形芸術大学〕)

演目／〈大江山〉・〈恵比寿大黒〉・〈八岐大蛇〉



※会場は両日とも、“京都芸術劇場 春秋座”（京都造形芸術大学内〔京都市左京区〕）。

※入場は無料。ただし、「往復はがき」での申し込みが必要。申し込み方法は、当館ホームページ (<http://www.izm.ed.jp/>) または大出雲展ホームページ (<http://izumo2012.jp/>) をご確認ください。

なお、この企画では、島根の伝統芸能や伝統工芸に早くから着目し、様々な角度からプロジェクトを起ち上げ、推進している京都造形芸術大学との連携を進めています。同大学の創設者・徳山詳直理事長は隠岐郡海士町のご出身。そこで、公演会場は同大学内“京都芸術劇場 春秋座”を選び、「石見神楽の部」では同大学の石見神楽サークル・京都瓜生山舞子連中と、その師匠筋である石見神楽温泉津舞子連中のコラボ公演も組んでいます。

関西の方々に島根の神楽の魅力を感じていただき、ぜひ秋の神楽シーズンには島根の現地へ足を運んでいただくキッカケとなるよう、満足度の高いイベントにしたいと考えています。



大土地神楽(野見宿禰)



温泉津&京都瓜生山(八岐大蛇)



島後久見神楽(巫女舞)

# お目見えが近づく二つの模型

古代出雲歴史博物館 主任学芸員 久保田 一郎

巨大柱の顕現で全国にとどろいた出雲大社境内遺跡ですが、今では調査も終わり落ち着きを取り戻しています。現地へ行けば、柱の発見された位置がマークされているので一目でわかりますが、博物館の展示室内で大社のことを話さなければならないスタッフは、「どう話せば位置関係をわかっていただけるか」にいつも頭を悩ませます。京都や東京ではさらに土地勘がない状態のお客様と向き合わねばなりません。

そこで「**出雲大社境内遺跡の模型**」を作ることになりました。これなら柱の発見地が一目でわかります。

わかりやすさを重視し、複数年度にわたる調査成果を一つにまとめて表現しました。



この場所には連綿とお社が営まれてきました。巨大柱（鎌倉時代）の上の層には室町時代の御本殿、さらに新しい面に江戸時代はじめての御本殿が建てられましたので、遺跡は三重、四重構造にもなります。複雑な位置関係をわかりやすく表すよう、注意を払いながら製作をすすめました。

もう一つは「**青木遺跡の祭祀の復元模型**」です。奈良～平安時代にかけての神社跡や、神祭りや役所仕事に使われた遺物が多く見つかっており、それを材料に古代の春祭りの場面を再現しました。石敷きで囲まれ、周りより少し高くなった区画の中に、神社の建物が3棟並びます。神社の前ではちょうどおごそかな神祭りが執行されているところ。御本殿の前で禰宜をはじめ、神職たちが並んでひざまづきます。目隠し塀の外には出雲郡（現在の出雲市北部）を支配する「郡

司」と随員がひかえます。見てきたかのように作ってしまっていますが、人物の配置等は、平安初期の伊勢神宮のお祭りの記録に基づいています。できるだけ近い時代の、実態が分かる史料を読み解いて復元することを心がけました。



神社の横にはお祭りが終わった後のなおらいの場面を再現しました。村人みんなが集まるお楽しみの大行事ではありますが、無礼講という感じはありません。上席から順に郡司→神職→村の長老と並び、他の村人も年長者から年下の者へ、という順番をまもって坐ります。まだ一人前扱いされていない「子弟」たちは「膳」（かしわで）、要するに調理・配膳・片付等の裏方仕事に走り回っています。「子弟」たちの間で「社首」がさかんに指示をとばしています。お祭りとなおらいの費用を村人から集めたり、使う物をそろえたりと、準備段階から祭事全般をとりしきってきたのでした。



断片的な史料から推定できるのはここまでです。誰と誰が夫婦か、カップルかというような細かいところは、ご覧になる皆様の想像にお任せしましょう…。

# 宇豆柱のあとに

出雲大社の巨大神殿を支えた宇豆柱が、約8ヶ月の長旅に出ます。京都や東京の国立博物館へ移動した宇豆柱は、全国の古代史ファンの目に生の姿を見せます。シンボルのように鎮座し続けた巨大柱がぬけた後の中央ロビーが空虚な空間になってしまわないよう、出雲大社の遷宮で光を浴び始めた貴重な資料を、お借りして、3回にわたって展示することになりました。

**(第1期：5月24日～8月20日)**

今次の大遷宮直前の御本殿は江戸時代の1744年に建ったものです。その本殿を飾っていた飾り金具を、目の前で実物大でご覧頂けます。

**(第2期：8月22日～10月15日)**

旧本殿が建てられた当初(1744年)の遷座祭で用いられた長大な「鉄矛」、その後の遷座祭で用いられた「金幣」などを展示します。立派な祭具を見ながら、大社の祭事に注がれたエネルギーの大きさに、思いをはせていただければと思います。

**(第3期：10月17日～12月17日)**

神饌所の壁板の裏側に描かれた、「宮大工の落書き」をご覧ください。特別拝観でご覧になった方も多いと思いますが、今回の展示資料はそのとき公にならなかった絵も含めて展示します。当時の人たちがダイコクさまにいただいたイメージが、ダイレクトにあらわれています。

宇豆柱がぬけて一抹の寂しさを感じる一方で、「早く「落書き」がみたい!」という自分勝手な好奇心も抱きつつ、準備を進めております。このニュースがお手元に届く頃には、第1弾の「飾り金具」がお目見えしていることでしょう。

## 「心に残る文化財子ども塾」～身近な地域の文化財に直接触れる～

島根県埋蔵文化財調査センターでは、郷土の歴史や地域の文化財を題材とした授業を通して、子ども達が文化財の大切さとふるさとへの愛着の気持ちを育むことを目的として、「心に残る文化財子ども塾」(以下、子ども塾)を実施しています。

子ども塾では、文化財の専門職員が小・中学校に出向き、学校の先生といっしょに以下のような学習を行います。

- ①地域の遺跡や古墳などの文化財を紹介したり、土器、石器、金属器などの本物の文化財を見たり触れたりします。
- ②勾玉作りや土器作り、火起こしなどの様々な古代体験活動を行います。
- ③学校の希望に応じて、学校周辺の遺跡や古代出雲歴史博物館などの歴史文化施設の見学、発掘体験を実施します。

実施後の子ども達の感想を見ると、「自分の住む町に遺跡がたくさんあることが分かった。もっと詳しく知りたい。」「昔のものがそのまま残っていることがすごいと思った。」「他にもいろいろな古代体験してみたい」など、地域の歴史や文化財への関心が高まっていることがわかります。



「まだ見つからないなあ…」

島根県のこうした学習の歴史は全国的にも古く、昭和60年代には発掘調査現場近くの学校で行われていました。その後、平成元年から島根県文化財愛護協会主催の「文化財愛護教室」として年間4～5校で実施され、平成8年度からは県の事業として名称も変更し、毎年20校以上(最多33校)の小・中学校で実施してきました。

今後も子ども塾を継続して実施し、次の時代を担う子ども達に地域の歴史文化を伝え、ふるさとへの愛着や誇りを育んでいきます。



「本物の土器だ!」

## 『いにしえ倶楽部』参加者募集のお知らせ

家族や友達と一緒に、楽しく「いにしえの島根」を体感しましょう。参加は無料です。

①「夏休み!みんなで発掘体験!」

日時：7月29日(日) 9時～11時30分  
会場：大田市波根町 高原遺跡  
(山陰道予定地内遺跡発掘調査現場)  
内容：発掘中の遺跡で土器を発掘したり、調査用の機器を使ってみたりします。

②「納涼!黄泉の国探検」

日時：8月5日(日) 18時30分～20時30分  
会場：島根県立八雲立つ風土記の丘  
(松江市大庭町456)  
内容：黄泉の国の世界を体感しに夜の横穴式石室(岡田山古墳)をきもだめし風に訪れます。

③「進め!まいセン探検隊  
～土笛(つちぶえ)づくり編～」

日時：8月19日(日) 13時～16時  
会場：島根県埋蔵文化財調査センター  
(松江市打出町33)  
内容：土笛づくり体験や、出土品の見学などを行います。

\*①②③それぞれ、内容や会場が異なります。募集定員は各回ごとに30人で、事前申込が必要です(定員になり次第受付終了)。小学生以下の方は保護者の方と一緒にご参加下さい。

お申し込み・  
お問い合わせ

島根県埋蔵文化財調査センター

電話：0852-36-8608 (8:30～17:15平日のみ) FAX：0852-36-8025

E-mail：maibun@pref.shimane.lg.jp HP：http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/

# 古事記1300年・出雲大社大遷宮特別企画 もうひとつのビッグイベント — 県外シンポジウム —

島根県古代文化センター 主任研究員 仁木 聡

島根県古代文化センターでは、県外特別巡回展に関する2つのシンポジウム開催に向け、準備を進めています。ひとつは、7月28日から9月9日まで京都国立博物館で開催される「大出雲展」に関連するシンポジウムです。このシンポジウムは、「ヤマト王権と出雲—検証・神々の国—」というタイトルで、7月29日(日)に京都市北区にある国立京都国際会館アネックスホールで行われます。

もうひとつのシンポジウムは、10月10日から11月25日まで東京国立博物館で開催される「出雲—聖地の至宝—」に関連するものです。「神々の国 出雲—日本神話の実像に迫る—」のタイトルで、10月14日(日)に東京都千代田区有楽町のよみうりホールで行われます。

いずれのシンポジウムも、出雲神話や古代史、そして考古学に造詣の深い先生方に基調講演やパネリストをお願いしています。特別展の事前調査で新たに発見された資料を紹介していただきながら、『記紀』や『出雲国風土記』に記された出雲神話の実像に迫り、古代出雲の魅力をお話しいたします。

さらに、今回のシンポジウムではNHK番組「歴史秘話ヒストリア」の案内役でもおなじみの、渡邊あゆみNHKチーフアナウンサーにコーディネーターをお願いし、女優の竹下景子さん(京都会場)と浅野温子さん(東京会場)をパネリストにお招きしています。シンポジウム会場でしか味わえない、島根県限定版の歴史秘話を楽しんでいただけるのではないかと考えています。ご期待下さい！

## 東京 シンポジウム「神々の国 出雲—日本神話の実像に迫る—」

【日 時】平成24年10月14日(日) 13:30開演 (13:00開場)

【場 所】よみうりホール (東京都千代田区有楽町)

【基調講演】梅原 猛 (哲学者)

【シンポジウムパネリスト】

◇浅野 温子 (女優)

◇三浦 祐之 (立正大学文学部教授 国文学)

◇瀧音 能之 (駒澤大学文学部教授 古代史)

◇森田喜久男 (古代出雲歴史博物館専門学芸員 神話学・古代史)

【コーディネーター】

◇渡邊あゆみ (NHKチーフアナウンサー)

【料金】無料 【定員】1000名 (定員になりしだい締め切ります)

※申し込みは8月から受け付けます。詳しくは電話03-6407-1455「出雲シンポジウム」応募事務局 (平日10時~17時) へお問い合わせ下さい。

※京都会場は定員に達しました。多くの申し込みをいただき、ありがとうございました。

## パスポート会員の皆様へ

### 「神話博しまね映像館」特典のお知らせ

いよいよ、7月21日から11月11日の期間で「神話博しまね」が開催されます。この開催期間中、パスポート会員ご本人は、「神話映像館券 (単券)」を前売料金 (当日500円を400円) で購入していただけます。(同伴者は、対象外とさせていただきます)

但し、歴博のみの観覧券は、同伴者もパスポート特典 (2割引) の対応をいたします。

# 企画展 スケジュール 2012-2013

特別展 平成24年7月21日(土)▶10月8日(月・祝)  
休館日：8月21日・9月18日

神々の国しまね  
**写真展「八雲立つ出雲」**  
—植田正治、上田正昭が歩いた神々のふるさと—

企画展 平成24年10月26日(金)▶12月24日(月・祝)  
休館日：11月20日・12月18日

**「戦国大名 尼子氏の興亡」**

企画展 平成25年1月18日(金)▶3月17日(日)  
休館日：2月19日

**「匠の技」** —弥生木製品から出雲大社まで—

特別展 平成25年4月12日(金)▶6月16日(日)  
休館日(予定)：4月16日・5月21日

平成の大遷宮 **「出雲大社展」**

# 巡回展

古事記1300年・出雲大社大遷宮特別企画

古代出雲の至宝—県外巡回特別博覧会  
◆京都国立博物館 特別展覧会 **大出雲展**

◎会期／平成24年7月28日(土)～9月9日(日)

出雲の古社、そして関わりの深い古寺の宝物と、出雲の重要遺跡から出土した品々を一堂で紹介する展覧会です。事前調査による新発見も盛り込んで、出雲神話と出雲大社の成り立ち、古代・中世の出雲人がはぐくんだ神と仏への祈りのかたちを展望します。



◆東京国立博物館 特別展 **出雲—聖地の至宝—**

◎会期／平成24年10月10日(水)～11月25日(日)

出雲大社の壮大な神殿を彷彿とさせる宇豆柱やいにしへの姿を今に伝える絵図・神宝、また荒神谷・加茂岩倉遺跡出土の国宝青銅器など、神々の国出雲、聖地出雲のイメージの中心となる、選りすぐりの文化財を展示します。



# イベント案内

## 七夕まつり



8月4日(土)～8月16日(木)の期間、エントランスホールに願い事を書いた短冊を飾りましょう。  
かつら並木にも飾ればより願い事がかなうかも。



## 神話博しまねイベント

「神話博しまね」が開幕します。歴博体験工房では、「神話フィギュアワークショップ」、「勾玉づくり体験」を期間中開催します。

- 期間** 7月21日(土)～8月31日(金)の毎日 (9月1日(土)～11月11日(日)は土日祝)
- 時間** フィギュアワークショップ 10:30～12:00  
勾玉づくり体験 13:30～15:00
- 定員** 各回先着20名
- 料金** 各回300円
- 受付** 情報交流室

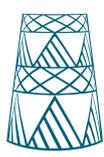


勾玉



フィギュアコロチ

発行／平成24年7月



島根県立古代出雲歴史博物館  
Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4  
TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350  
URL : <http://www.izm.ed.jp> E-mail : [contact@izm.ed.jp](mailto:contact@izm.ed.jp)  
開館時間 9:00～18:00(11月～2月は、9:00～17:00)



マスコットキャラクター 雲太くん



マスコットキャラクター 出雲ちゃん